



栃木県防草ブロック工業会(TWBA)会長＝舟田詔光氏は11月28日、ホテルマイステイズ宇都宮(栃木県宇都宮市)で第3回総会と研修会を開催した。



舟田会長

総会では第2期事業報告・収支決算報告と第3期事業計画・予算案などを審議し、原案通り可決承認した。前期は10回に及ぶ営業技術会議を開催した他、9月には宇都宮大学構内に、フィールド実験計画。この他にも、宇都宮大学雑草と里山の科学教育研究センター及び関東地方整備局宇都宮国道事務所の共催による市民公開シンポジウム「人と道路と雑草～道路にくらす雑草を科学する」のポスターをセッションへの参加など、防草ブロックの積極的なPR活動を展開する。同工業会には共和飯塚と新生興産が入会し、会員社は8社となつた。

総会で挨拶した舟田詔光会長は

施設として防草ブロックを使った中央分離帯を設置した。今期は総会の他、役員会(年2回)と営業技術部会(毎月)を開催する計画。この他にも、宇都宮大学雑草と里山の科学教育研究センター及び関東地方整備局宇都宮国道事務所の共催による市民公開シンポジウム「人と道路と雑草～道路にくらす雑草を科学する」のポスターをセッションへの参加など、防草ブロックの積極的なPR活動を展開する。同工業会には共和飯塚と新生興産が入会し、会員社は8社となつた。

また顧問の石川重規氏(防草研究会)は「防草ブロックの技術は、ハードとソフトが備わった土木製品としては唯一の存在だ。しかし、多くの有識者から高い評価を得て、いる事に胡坐をかいていたのでは、すぐに他の技術に追い越されてしまった。その意味で、宇都宮大学の西尾孝佳准教授をアドバイザーとする栃木県防草ブロック工業会から、

決算報告と第3期事業計画・予算案などを審議し、原案通り可決承認した。前期は10回に及ぶ営業技術会議を開催した他、9月には宇都宮大学構内に、フィールド実験計画。この他にも、宇都宮大学雑草と里山の科学教育研究センター及び関東地方整備局宇都宮国道事務所の共催による市民公開シンポジウム「人と道路と雑草～道路にくらす雑草を科学する」のポスターをセッションへの参加など、防草ブロックの積極的なPR活動を展開する。同工業会には共和飯塚と新生興産が入会し、会員社は8社となつた。

総会では第2期事業報告・収支決算報告と第3期事業計画・予算案などを審議し、原案通り可決承認した。前期は10回に及ぶ営業技術会議を開催した他、9月には宇都宮大学構内に、フィールド実験計画。この他にも、宇都宮大学雑草と里山の科学教育研究センター及び関東地方整備局宇都宮国道事務所の共催による市民公開シンポジウム「人と道路と雑草～道路にくらす雑草を科学する」のポスターをセッションへの参加など、防草ブロックの積極的なPR活動を展開する。同工業会には共和飯塚と新生興産が入会し、会員社は8社となつた。

宇都宮大学で実証実験

栃木県防草ブロック工業会

全国へ向けて実証研究の成果を発信して欲しい。継続性のある営業活動で、貴工業会がさらなるバリューアップを遂げることを期待している」と挨拶した。

総会後の研修会では、宇都宮大

「昨年に続き今年も各地で豪雨災害が多発した。被災地では今後、災害復旧工事が進められるが、人命と財産を守る我々業界の使命を考えると国土強靭化に向けて果たすべき使命は非常に大きい。社会資本整備の一翼を担う自覚と誇りを持つて邁進して行かなければならない。当工業会は3回目の総会を迎えたが、昨年度は宇都宮大学構内に防草ブロックを使った中央分離帯を施工した。本格的な実験

フィールドで、全国防草ブロック工業会でも注目を集めている。防草ブロックは各方面で高い評価を得ており、引き続き皆さんの協力を得て、当工業会の発展と防草ブロックの普及を図りたい」と述べた。

また顧問の石川重規氏(防草研究会)は「防草ブロックの技術は、ハードとソフトが備わった土木製品としては唯一の存在だ。しかし、多くの有識者から高い評価を得て、いる事に胡坐をかいていたのでは、すぐに他の技術に追い越されてしまった。その意味で、宇都宮大学の西尾孝佳准教授をアドバイザーとする栃木県防草ブロック工業会から、

一部の雑草にとつて地下空間は苦

ではない」「仮説2▽安定した種子供給源が近くにあるので、望ましい環境でなくても見かけ上は雑草が途絶えない」「仮説3▽道路環境に適応した雑草が特殊な性質を獲得している」という3つの仮説を提示した上で、「仮説1が正しければ雑草管理では道路構造の見直しが必要になり、防草ブロックは狭い地下空間を利用しようとする

植物には何らかの弱点があり正しい

可能性は低いが、自然環境に適応した種が人間の作り出した道路環

境で何らかの微進化を遂げる可能

性は否定できない」と指摘。野外調

査と宇都宮大学構内に完成した

実験フィールドを活用して仮説の

検証を進める考えを示し、「防草ブ

ロックで対処できない課題を抽出

することも、今回の研究の大重要な

テーマと考えている。回避できること

で、次の一歩を打つことができる

のではないか。皆さんの協力で、大

変興味深い実験系を作つて頂いた。

ここからたくさんの知見が得られ

ると思う。得られた知見は皆さん

の技術の普及やメンテナンス、ア

ク会

の技術の普及やメンテナンス、ア